

**ONKYO®**

# 2017年3月期 通期決算説明

(2016年4月～2017年3月)

オンキヨー株式会社(証券コード:6628)

# 本資料に関するご注意等

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結業績ハイライト

(百万円)	17年/3月期	前年同期比
売上高	558億82百万円	643億92百万円
営業損益または 営業損失(△)	7億70百万円	△20億29百万円
経常損失(△)	△4億58百万円	△22億41百万円
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	△7億52百万円	△11億26百万円

## トピックス

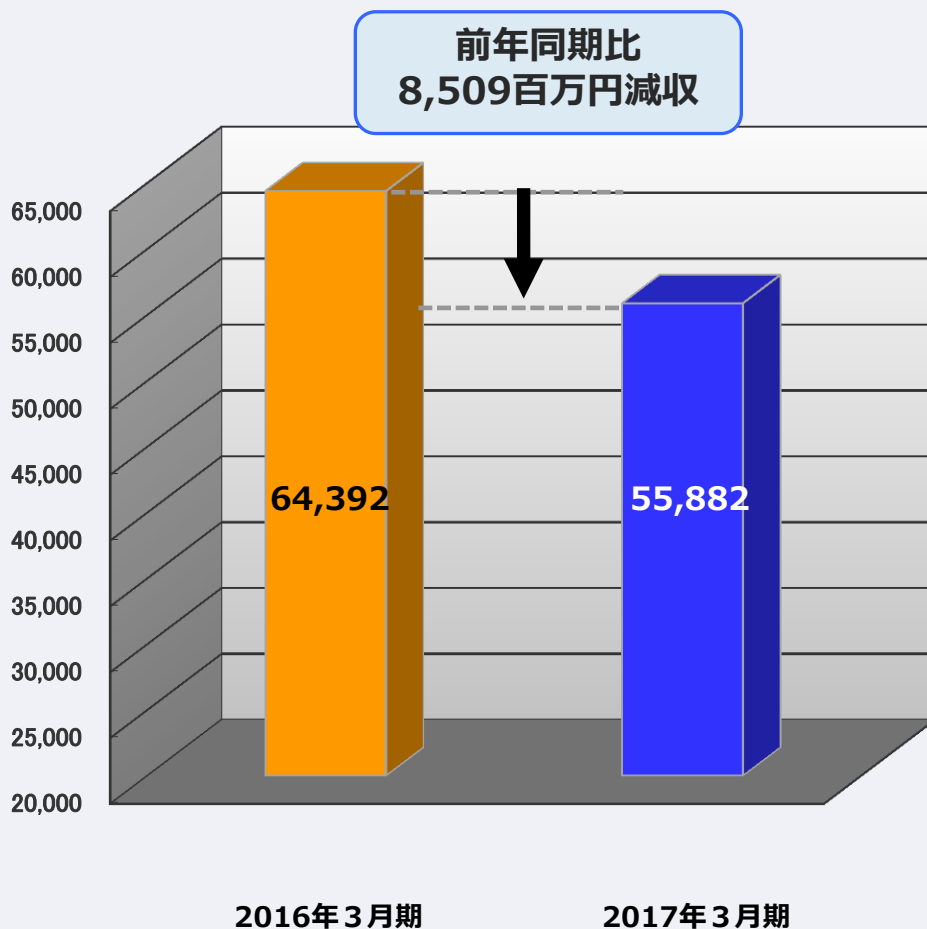
- 統合効果が本格化、営業利益大幅増となり黒字転換を実現
- AV事業の回復とデジタルライフ事業の躍進により全セグメントで通期黒字達成
- ハイレゾ対応スマートフォンの発売や音声認識対応製品の開発など新分野の開拓
- OEM事業におけるヘッドホン完成品の生産や他社との協業の推進

# 連結損益計算書

(百万円)	16年3月期 期末	17年3月期 期末	前年同期比	前年同期比	17年3月期 通期当初予想	業績予想比
売上高	64,392	55,882	△ 8,509	△ 8,509,523	65,000	△ 9,118
売上原価	48,293	39,390	△ 8,903	△ 8,903,015	-	-
売上総利益	16,098	16,491	393	393,491	-	-
販売費及び一般管理費	18,127	15,721	△ 2,406	△ 2,406,449	-	-
営業利益または営業損失(△)	△ 2,029	770	2,799	2,799,939	1,000	△ 230
営業外収益	716	120	△ 595	△ 595,818	-	-
営業外費用	928	1,349	421	421,716	-	-
経常損失(△)	△ 2,241	△ 458	1,782	1,782,406	500	△ 958
特別利益	2,762	47	△ 2,714	△ 2,714,628	-	-
特別損失	1,117	97	△ 1,020	△ 1,020,358	-	-
税金等調整前当期純損失(△)	△ 596	△ 508	88	88,136	-	-
法人税、住民税及び事業税	159	175	16	16,041	-	-
過年度法人税等	52	-	-	-	-	-
法人税等調整額	400	28	△ 371	△ 371,804	-	-
非支配株主に帰属する当期純利益または 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△ 82	39	121	121,789	-	-
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△ 1,126	△ 752	374	374,134	400	△ 1,152
売上総利益率	25.0%	29.5%	-	-	-	-
営業利益率	-3.2%	1.4%	-	-	-	-
経常利益率	-3.5%	-0.8%	-	-	-	-
EPS	△14円89銭	△9円24銭	-	-	-	-

# 通期 売上高分析

## 売上高分析 (百万円)



AV事業における不採算製品の販売を積極的に見直したことや円高による海外売上高の大幅な目減りにより、売上高は8,509百万円減収の55,882百万円となりました。

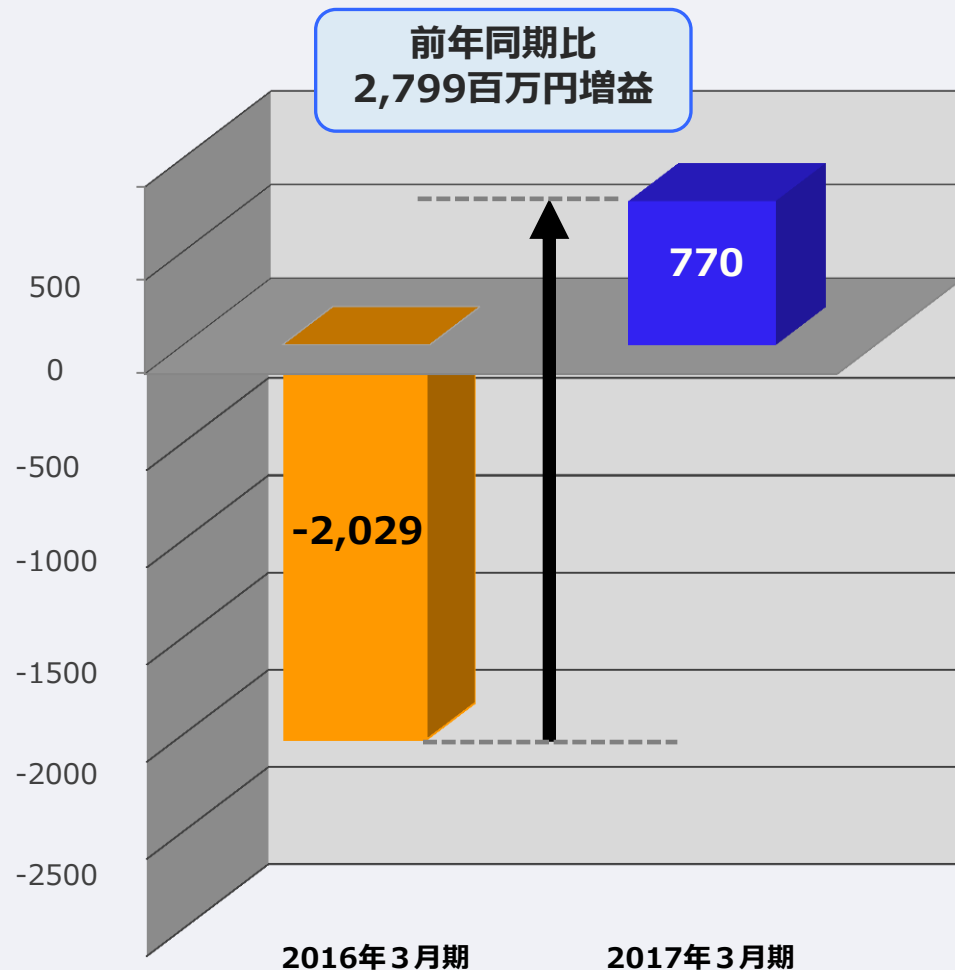
デジタルライフ事業におけるポータブルデジタルオーディオプレーヤー、ヘッドホン、イヤホン、高音質を追及したハイレゾ対応スマートフォン、などのモバイル製品の販売およびパイオニアブランドの電話機の販売が伸長しました。

OEM事業では車載用スピーカーの売上が堅調に推移したもののマイクロスピーカーは受注が減少しています。しかしながら、新素材セルローズナノファイバー振動板を採用したヘッドフォンドライバーを開発し完成品としても生産するなど新分野を開拓しています。

# 通期 営業損益分析

## 営業損益分析

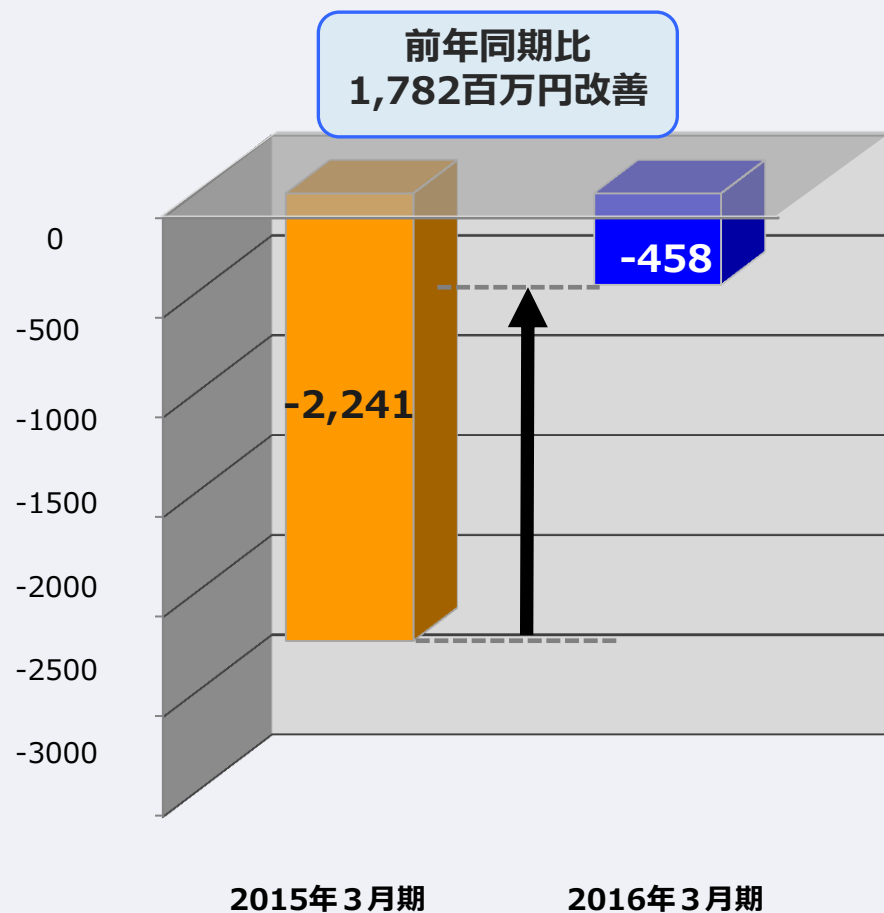
(百万円)



AV事業における統合シナジー効果による製品開発の共通化や原価低減や、デジタルライフ事業での新製品の販売が大きく伸長したことなどが大きく業に寄与することになり、前年同期比2,799百万円と大幅な増益となり、770百万円の営業利益を実現して、黒字転換となりました。

# 通期 経常損益分析

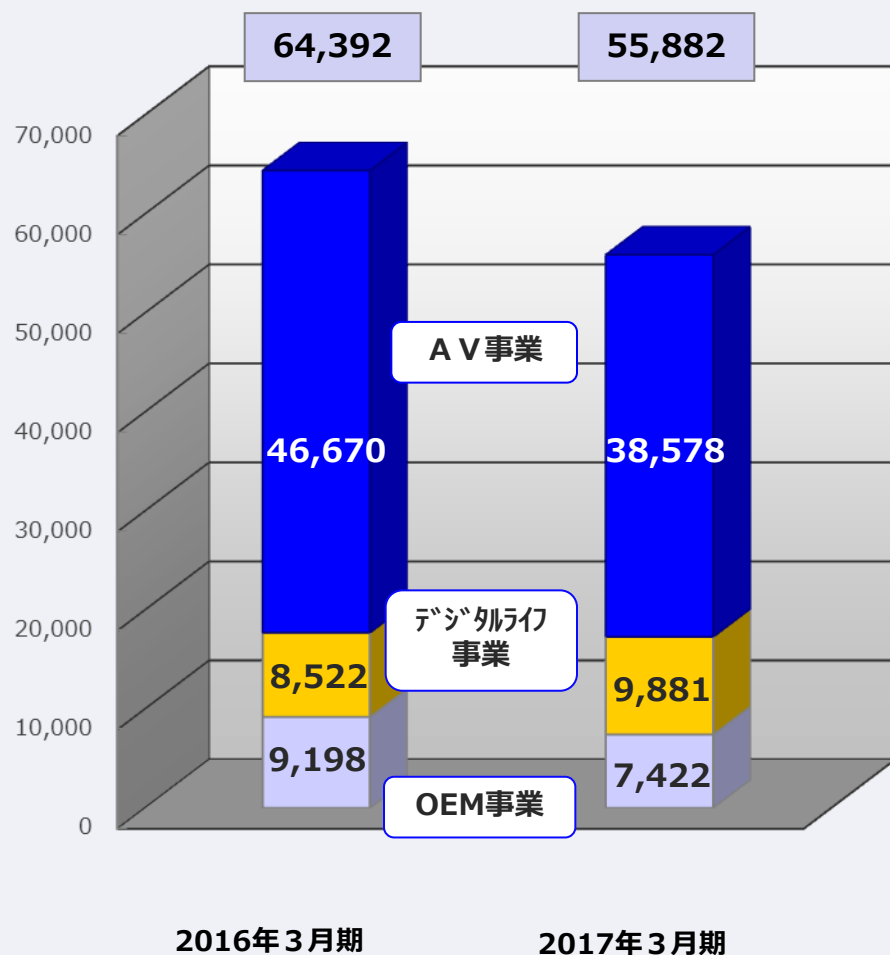
## 経常損益分析 (百万円)



為替差損が発生したものの、前年同期比  
1,782百万円の大幅改善を実現し、458  
百万円の経常損失となりました。

# 通期 事業セグメント別売上高

事業セグメント別売上高 (百万円)



## 【AV事業】

北米においてはオンキョーブランドパイオニアブランドともAVレシーバーが好調、欧州においてはパイオニアブランドのミニコンポが堅調に推移しています。不採算製品の販売は積極的に見直し、また両ブランドで設計を共通化するなどしてコストダウンを図るなど利益拡大を実現しています。

## 【デジタルライフ事業】

ハイレゾ対応のデジタルオーディオプレーヤーに加え、ハイレゾスマートフォンの発売やイヤホン、ヘッドホンなどモバイル製品の販売が好調です。e-onkyo musicとの連携によるアニメとのコラボレーションモデルや、電話機器の販売も業績拡大に寄与しています。今後もモバイル機器市場へ特長ある製品を投入し、さらには音声認識やIoT対応製品など今後拡大が見込まれる新市場への製品開発を行い業績拡大を目指しています。

## 【OEM事業】

車載用スピーカーが堅調に推移しています。薄型テレビの高音質化への動きが活発になり、大手テレビメーカーとスピーカー部分での共同開発を行い、「Sound by Onkyo」と付けられた製品が販売され注目されています。また株式会社河合楽器製作所との協業によるデジタルピアノの製品化が順調に進行、新市場開拓に積極的に取り組んでいます。

■ 合併会社設立によりインドにスピーカー部品の生産工場を設立。インド国内の車載用スピーカー需要に対応して生産拡大を目指しています。



# 連結財務状況について

(百万円)	16年3月期 期末	17年3月期 期末	差額
流動資産	27,004	23,874	△ 3,130
有形固定資産	1,834	1,969	134
無形固定資産	349	498	149
投資その他の資産	3,127	3,446	319
資産合計	32,316	29,789	△ 2,526
流動負債	25,297	22,416	△ 2,881
固定負債	4,120	4,696	576
負債合計	29,418	27,113	△ 2,305
純資産合計	2,897	2,676	△ 221
負債純資産合計	32,316	29,789	△ 2,526
有利子負債・純資産比率	265.4%	241.2%	-
ROE	-78.4%	-61.8%	-

通期連結会計年度における総資産は、前期末比2,526百万円減少の29,789百万円となりました。

有利子負債は前期末比1,233百万円減少の6,456百万円（リース債務除く）となりました。

純資産は前期末比べ221百万円減少の2,676百万円となりました。

# 2017年3月期 通期連結業績予想について

(百万円)	17年3月期	18年3月期 (予想)	差額
売上高	55,882	60,000	4,118
営業利益	770	1,400	630
経常利益または 経常損失(△)	△ 458	300	758
親会社株主に帰属する当期純利益 または当期純損失(△)	△ 752	100	852
一株当たり当期純利益または 一株当たり当期純損失(△)	△9.24円	1.16円	-

AV事業においては統合シナジー効果を継続し、不採算機種の見直しを徹底するなどしてさらにコスト低減を図り、引き続き利益重視とした事業戦略を実施して業績改善を目指します。

デジタルライフ事業では、電話機の販売とともに、e-onkyo musicによるハイレゾ音源配信とも連携したモバイル機器の拡大、さらにはAIスピーカーをはじめとする音声認識やIoTに対応した次世代製品の開発にも注力し新分野市場の拡大を目指します。

OEM事業においては、インド生産工場の本格稼働を実現し車載用スピーカー事業を拡大するとともに、新素材を採用した完成品の受託生産などを拡大していきます。

収益力の改善と新規分野の市場開拓を推進し、通期での黒字化を目指します。

The background is a solid blue color with a subtle pattern of concentric circles and a grid of small dots and diamonds. The dots are arranged in a grid that is slightly offset from the diamond pattern. The overall effect is a textured, modern look.

**ONKYO®**